

ジャワ探究：南の国の歴史と文化 ー 補遺

# 社寺の守護神

井口正俊



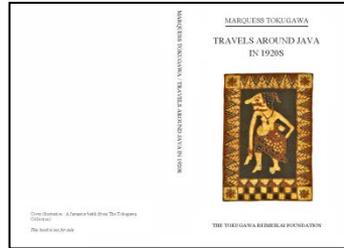
ボロブドールの仏に囲まれた筆者(2004)

# 経緯

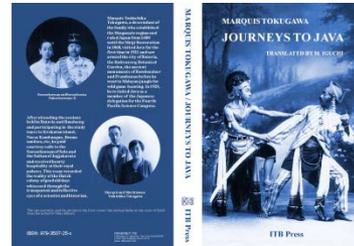
- 東京工業大学大学院理工学研究科博士課程(繊維工学専攻)修了 1966, 工学博士。  
旧・工業技術院に在職, 高分子科学らしきことに手を汚す。  
高分子(POM)ウイスキー, バクテリアセルロース。
- 旧・工業技術院在職中に日本アセアン科学技術協力高分子プロジェクトのためバンドンに滞在(1990-1992)。  
他の対インドネシア研究協力プロジェクトに関与(1984-87, 1995-1998)。
- 定年後, 科学技術振興事業団海外研究フェローシップを得てボゴールゴム技術研究所に滞在(1999-2002)。
- 公職を離れてから, 上記の期間に垣間見て魅せられたジャワの歴史文化の勉強を自学。  
書籍, 古文書(現代語訳), 現地調査, 専門家と会話。

# 出版

## 徳川義親著「じゃがたら紀行」翻訳



The Tokugawa Reimeikai 1996



ITB Press 2004



ITB Press 2006 (インドネシア語版)

International Workshop on Green Polymers,  
Bandung-Bogor 1996 参考資料用に翻訳。

インドネシアの友人が英語から  
再訳。

## 書下し



著者: 井口正俊

書名: ジャバ探究: 南の国の歴史と文化

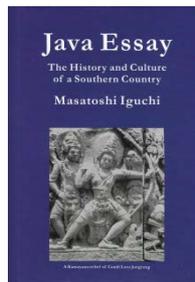
発行所: 丸善プラネット株式会社, 東京

発売所: 丸善出版株式会社, 東京

発行日: 2013年10月10日

Hardcover ¥4,320

フォーマット: A5, 364<sup>h</sup>-<sup>v</sup>, ISBN-10: 4863451741; ISBN-13: 978-4863451742



著者: Masatoshi Iguchi

書名: Java Essay: The History and Culture of a Southern Country

出版社: Troubador Publishing Ltd., Leicester, UK

発行日: 2015年1月25日

フォーマット: Royal, 342<sup>h</sup>-<sup>v</sup>, ISBN-10: 178462151X; ISBN-13: 978-1784621513

Hardcover £51.95, Kindle版 ¥955 (完成度は日本語版より高)。

# ウェブサイト開設

<http://www.maiguch.sakura.ne.jp/>

Toshi's Homepage “ジャワの歴史と文化”ほか



ホーム

ジャワの歴史

じゃがたら紀行(翻訳)

年賀状

クリスマスカード

学術記事

随筆など

写真貼

2015年8月

謹啓

閑居十余年にして漸くホームページなるものを開設しました。漸くと申した所以は、己の書いたものを直接他人様の目に曝すことに躊躇があったからに外なりません。サイエンスの一分野で研究如きことを生業とせし愚生、自らの著作を公にする機会是一般の方より多かつたと存じますが、論文はもとより解説や随想に至るまで、予め一定の基準に照らした査定を受けるのが常でありました。将又、学会の機関紙や職場情報紙などへの寄稿の場合には、編者から忌憚のない註文を貰いました。

逡巡する愚生を促したのは友より授かったアドヴァイス、就中「自分の人生を顧みる機会ともなろう」との言は、強く背を押してくれました。コンピューターなるものには長年馴れ親しんできたもののウェブ用のHTML や CSS は相当に面倒な言語、されど Microsoft Expression Web 4 の如き便利なソフトウェアが手にできたのは有難く、何とかホームページらしきものができました。

謹白

井口正俊  
練馬寓居にて。

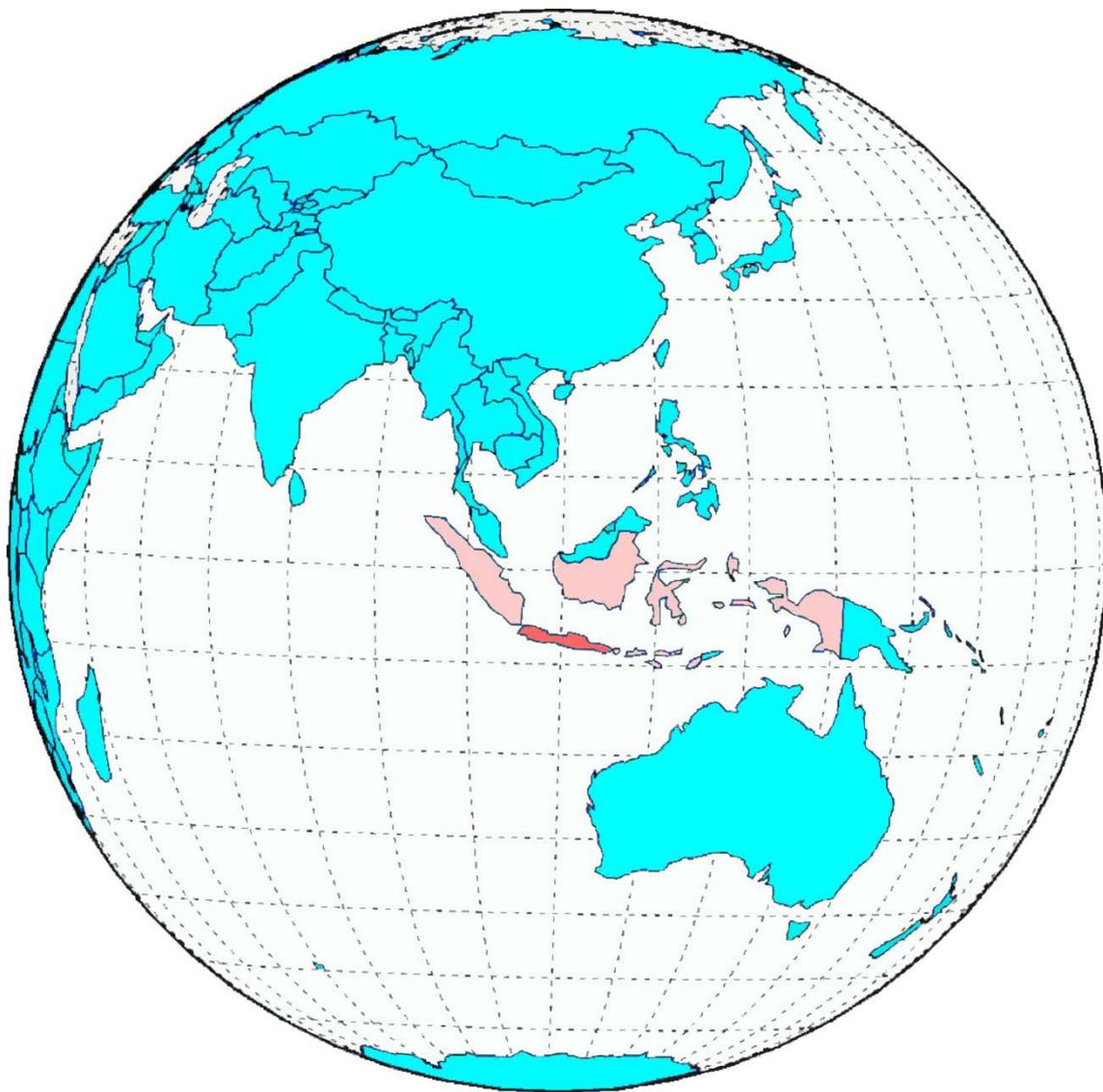
本日の主題である『ジャワ探究:南の国の歴史と文化  
[補遺] 社寺の守護神』などを掲載。

# 本日の話の目次

## I. ジャワ史沿革

## II. 社寺の守護神

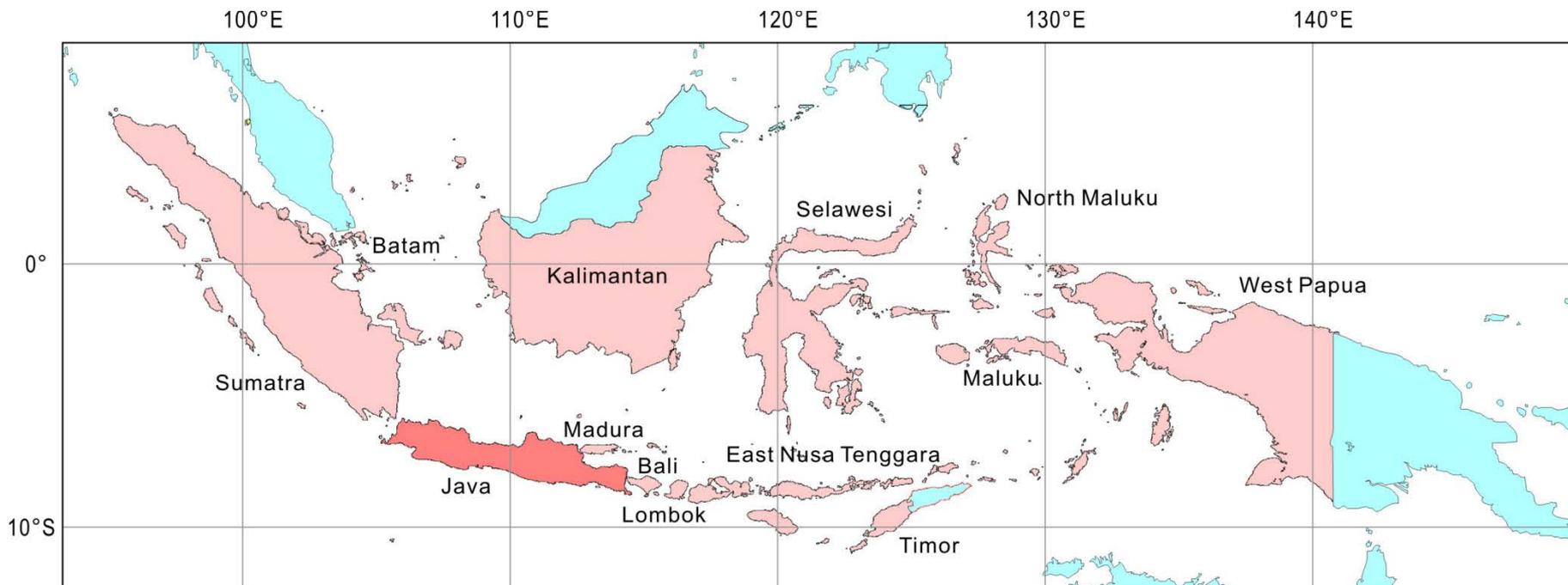
1. カーラ面とマカラ
2. 建物を支える人像またはアトラス
3. ドゥワラパーラまたは仁王像
4. 獅子像
5. 結言:日本の社寺守護神のルーツ



インドネシア共和国  
=旧蘭領東印度の全域。

東西 5,110km  
東経 95° - 141°

南北 1,888km  
北緯 6° - 南緯 11°



DIVA GIS Special Data (Country Level) に基づき作成。2016.03.12.

ジャワの標記

インドネシア語: Jawa。

欧州語: Java (古くは laoa)。

漢語/日本語: 爪哇, 閩婆。

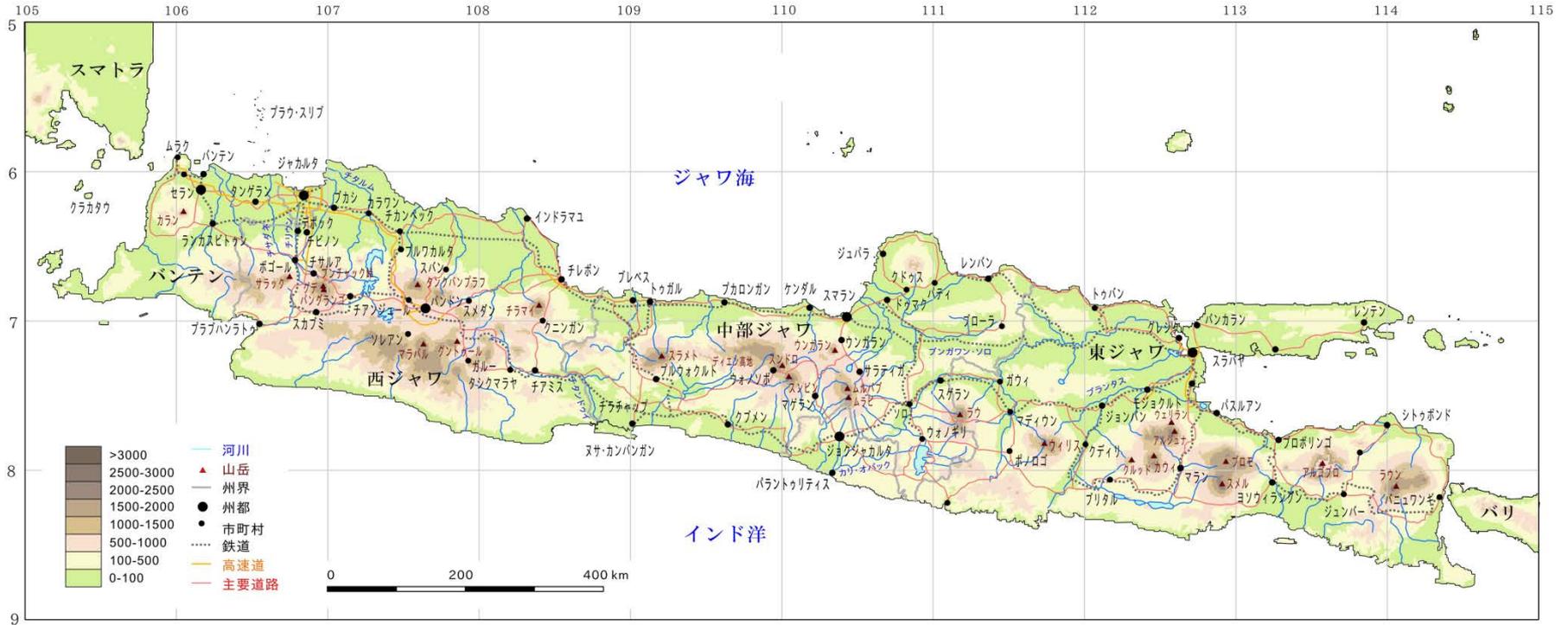
東西 1,000 km

南北 210 km

面積 128,297 km<sup>2</sup>

(日本の本州の約60%)

# ジャワ全図

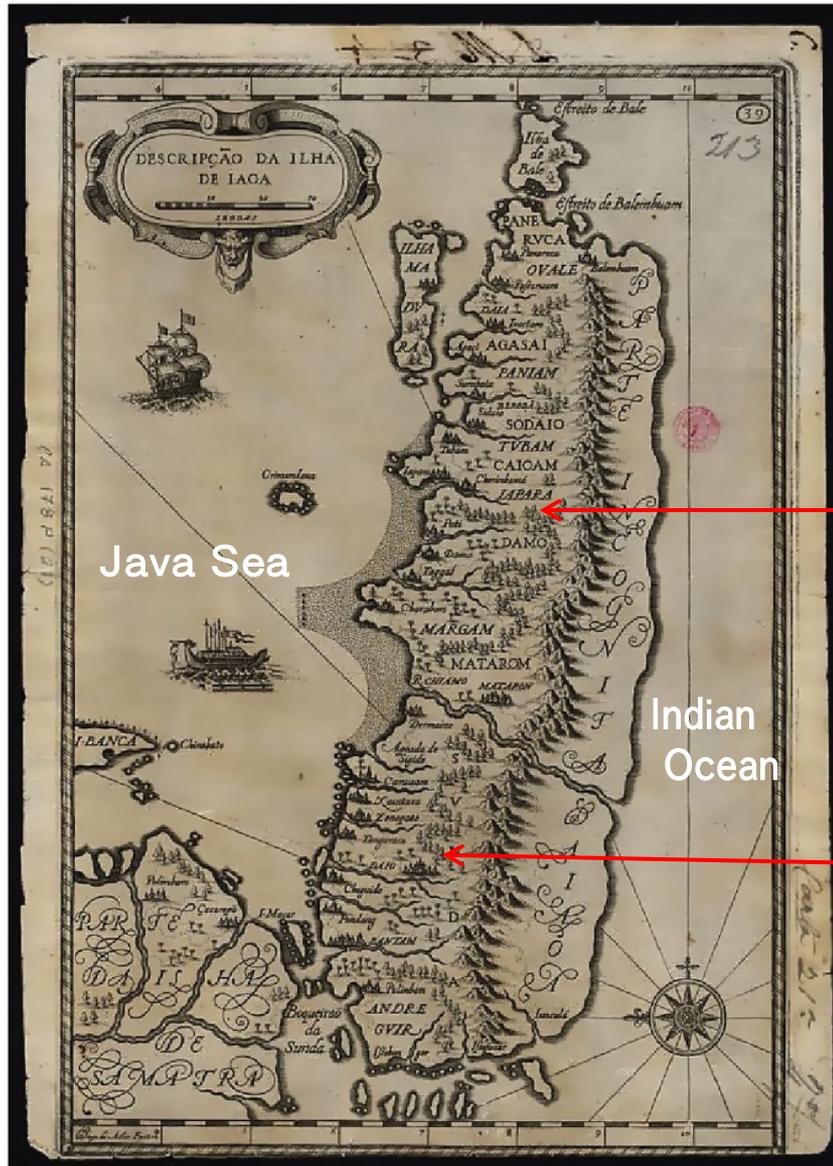


地形図は DIVA-GIS/Spatial Data によって作成。M. Iguchi 2015.

# Map of Java Island (Descricao da ilha de Iaoa) Madrid 1615?

By courtesy of Portuguese National Digital Library, reproduced from <http://purl.pt/1442/1/P1.html>.

- ・ジャワとスンダの間には交流が乏しかった。境界に水道が描かれている！
- ・インド洋沿岸は当時の船では航海困難、未探査のため不詳。



Tanah Jawa (Land of Java)

Tanah Sunda (Land of Sunda)

# ジャワ史沿革(1)

ヒンズー/仏教
  イスラム
  キリスト教
  自由

西暦	西ジャワ	西暦	中部ジャワ/東ジャワ
		78	アジ・サカ, インドから渡来し文明(仏教, 文字, 暦など)を齎す。末路は不明。
130	サラカナガラ建国(→363)。		
358	タルマナガラ建国(→669)。 数点のプラサスティ(石碑)が遺る。		
526	西ジャワ東方にケンダン国建国(→852)。		
612	ケンダンの都を更に東方のガルー(現チオマス付近)に移す。		
		648	カルティケヤシンガー, ケリン国建国。 舊唐書列傳記載「訶陵國」はこの国に相当(筆者確信)。都は恐らく中部ジャワ北部。
666	スندا国建国(→1482)。都は恐らく現ポゴール。		
		674	カルティケヤシンガー王崩御, 妻のシマ(舊唐書列傳の「悉莫」)が女王となる。
709	ガルーの王子セナ即位(妻は中部ジャワ・カリंगाの女王シマの孫娘サンナハ)。 サンジャヤ・ハリスダルマ誕生。		
		c725	サイレンドラ国建国。
		732	西ジャワのサンジャヤ, 中部ジャワに移ってケリン国シマの曾孫を娶り遺産を継承, 一帯を平定してサンジャヤ国建国。

# ジャワ史沿革(2)

ヒンズー/仏教
  イスラム
  キリスト教
  自由

西暦	西ジャワ	西暦	中部ジャワ/東ジャワ
		745	ガジャヤナ, 東ジャワ(現マラン付近)に <b>カンジュルハン王国</b> 建国。新唐書の「其祖吉延東遷」に相当。
		c752	サイレンドラ第2代バーヌ即位。
		760	サンジャヤ第2代パナンカラン即位。妻はサイレンドラの王女。
		782	サイレンドラ第3代indra即位。 <b>ムドゥ寺院</b> 建立, <b>ボロブドゥール寺院</b> 起工。
		812	サイレンドラ第4代サマラトウガ即位。妻はシュリヴィジャヤのターラ王女。
		824	<b>ボロブドゥール寺院</b> 竣工。
		828	サイレンドラのプラモダワルダニ王女, サンジャヤのラカイ・ピカタン王子と結婚。
		832	サイレンドラのサマラトウガ薨じ, <b>サイレンドラ国はサンジャヤ国と合邦</b> 。
		838	ラカイ・ピカタン, サンジャヤ王に即位。
		850	サイレンドラのバーラタプトゥラ王子, 義兄ラカイ・ピカタンと争った後, 母の里スマトラのスリヴィジャヤに移る。
		856	<b>プランバナ</b> 寺院群建立。
		898	ラカイ・カユワング即位。碑文に <b>影絵劇ワヤン</b> 上演, <b>ラーマーヤナ朗詠</b> , <b>舞踊披露</b> などの記録。
		929	ムプ・シンドク, 東ジャワ中部メダンに遷都, イシャナ朝開朝。
		1006	<b>メダン</b> , <b>シュリヴィジャヤの攻撃で落城</b> 。バリの王子アイルランガ, メダンの王女を伴って避難。

# ジャワ史沿革(3)

ヒンズー/仏教
  イスラム
  キリスト教
  自由

西暦	西ジャワ	西暦	中部ジャワ/東ジャワ
		<b>1019</b>	アイルランガ <b>挙兵</b> , 乱れた国を平定し, ジャワの王となる。
		<b>1035</b>	アイルランガの頌歌「カカウイン・アルジュナウィワハ」書かれる。
		<b>1037</b>	アイルランガ, <b>クディリ王国建国</b> 。文学にも配意。
		<b>1135</b>	クディリ第3代 <b>ジャヤバヤ即位</b> 。文学栄え, <b>バーラタユツダ</b> , <b>クリシュナヤーナ</b> , <b>ポーマンタカ</b> 等のカカウイン書かれる。
		<b>1185</b>	クルタジャヤ即位(→1222)。暴君。
		<b>1222</b>	<b>ケン・アロック</b> , トウマペル領主トウンガル・アメトウンを討ち, アメトウンが拉致していた仏教聖者の娘ケン・デデスを娶る。次いでクディリを征服して, <b>シンガサーリ国建国</b> 。
		<b>1247</b>	ケン・アロック, トウンガル・アメトウンの忘れ形見アヌサパティに暗殺される。
		<b>1268</b>	シンガサーリ第5代のクルタネガラ即位。シンガサーリ絶頂期。元のクビライ・カーンが求める朝貢を2度拒否。
<b>1292</b>	マルコ・ポーロ, スマトラに寄留, ジャワに関する伝聞を聞く(ヴェネツィアに帰国後, イル・ミリオオーネを著す)。	<b>1292</b>	5月, クディリ代官ジャヤカトウン, クルタナガラを暗殺。 <b>シンガサーリ終焉</b> 。
			11月, <b>元軍来襲</b> , ジャヤカトウンを屠る。この機に, ラデン・ウィジャヤ(ケン・アロック/ケン・デデスの曾孫)元軍を撃払い, <b>マジヤパヒト建国</b> 。
		<b>1328</b>	第3代トウンガデウィ女王即位(→1351)。 <b>パナタラン寺院</b> 拡充。

# ジャワ史沿革(4)

ヒンズー/仏教
  イスラム
  キリスト教
  自由

西暦	西ジャワ	西暦	中部ジャワ/東ジャワ
1333	西ジャワ東部にカワリ王国分立。		
		1350	第4代 <b>ハヤム・ウルク</b> 即位。宰相ガジャ・マダの貢献あって国威発揚。史書(地誌)「 <b>デサウルナーナ</b> 」書かれる。
1355	<b>ブバト悲劇</b> 。婚礼のため娘ディア・ピタロカ, 皇后らを伴ってマジャパヒトを訪れたカワリ王リンガブアナー行, ガジャ・マダの姦計により戦を強いられ全員討死。女性も殉死。	1355	マジャパヒト王ハヤム・ウルクがカワリ第2代リンガブアナー王の娘ディア・ピタロカに求婚。
1355	カワリ王弟スラディパティ即位, 国体維持。		
		1389	ハヤム・ウルク崩御。後に王位継承争い。
		1416	馬歡著「瀛涯勝覽」に爪哇國(マジャパヒト)国情の詳細な記述。
		1475	ラデン・パター, <b>イスラム国ドゥマック</b> 建国。マジャパヒト王国実質的に終焉。
		1478	マジャパヒト最後の王ブラウィジャヤV崩御。
1479	チレボン, スンダ王国から分離。		
1482	カワリ第6代スリ・バドゥガ(通称シリワンギ), 西ジャワ統一, <b>パジャジャラン</b> 国建国。 <b>長編詩「ブジャンガ・マニク物語」</b> , <b>シリワンギ物語</b> 書かれる。		
1513	<b>ポルトガル船初到来</b> (スンダクラパ港)。		
1521	パジャジャラン第2代スラウィセサ即位。		
1522	パジャジャラン・ポルトガル防衛協定(対イスラム, 効果なさず)。		

# ジャワ史沿革(5)

ヒンズー/仏教
  イスラム
  キリスト教
  自由

西暦	西ジャワ	西暦	中部ジャワ/東ジャワ
1521	パジャジャラン第2代スラウィセサ即位。		
1526	ファタヒラー率いるイスラム教徒によりバンテン陥落。		
1527	スنداクラパ陥落。		
1533	スラウィセサ, スリ・バドゥガ顕彰碑(バトゥ・トゥリス)を建てる。		
		1548	イスラム国ドゥマック終焉。
1552	シャリフ・ヒダヤット(スリ・バドゥガの孫, イスラム教徒)パジャジャランからの <b>チレボンの独立を宣言</b> 。		
1579	パクアン陥落, <b>パジャジャラン滅亡</b> 。国宝スメダンランに移転, 秘匿される(現存)。		
		1584	マジャパヒトの末裔パネムバハン・スノパティ, スルタンを名乗りパジャン(現在のソロ近郊)に <b>新マタラム国建国</b> 。
1595	オランダ船初到来, バンテンに寄港。		
1603	<b>VOC(オランダ東インド会社)設立</b> 。		
1611	VOC, ジャヤカルタに城砦建設。		
		1616	スルタン・アグン・ハニョクロクスモ即位, カルタスラに王都。国土拡大。
1619	英・バンテン連合ジャヤカルタ占領, VOCのJ. P. クーン総督が奪還。		
1621	<b>ジャヤカルタ, バタフィアと改名</b> 。バタフィア砦建設。バタフィア都市計画。		

# ジャワ史沿革(6)

ヒンズー/仏教
  イスラム
  キリスト教
  自由

西暦	西ジャワ	西暦	中部ジャワ/東ジャワ
1628-29	バタフィア, マララム王スルタン・アグンの攻略を2度受けるも, それに耐える。	1628-29	スルタン・アグン, バタフィアに2度遠征(失敗)。
1632	十字教会建立。		
1640	日本から追放のジャガタラお春ら蘭英人子女バタフィア着。		
1677	チレボン王国分解始る。		
1698	チレボンでワングサクルタ王子チームにより「列島列王記」等の歴史叢書完成。		
1710	バタフィア市庁舎改築(現・歴史博物館)。		
1722	ピーター・エルベルフェルド反逆事件(未遂)。		
1740	シナ人大暴動。		
		1743	新マタラム国のパクブウォノ二世, スラカルタ(ソロ)に新都。
		1755	ジャワ継承戦争(王位を巡る内乱)。VOCの調停により新マタラム国は, ススフナン家(ソロ)とスルタン家(ジョクジャカルタ)に二分割。以後国情安定し, 両家で史学, 文学, 芸術興隆。ワヤン・クリット洗練, 舞台劇ワヤン・ワング, 宮廷舞踊(スリンピ, ブドヨ)創始。
1744	ファン・インホフ総督, バイテンゾルフ(現ボゴール)に私的別荘を設ける(1870 東インド総督公邸となる)。		
1799	VOC破産(過大配当)。		

# ジャワ史沿革(7)

ヒンズー/仏教
  イスラム
  キリスト教
  自由

西暦	ジャワ
1808	フランス支配下オランダのデーンデルス総督着任, バタフィア改造, ジャワ縦貫道路建設。宗教自由化。
1810	バンドン市(要塞)建設。デーンデルス総督解任され, ヤンセンス将軍が後任。
1811	ミント卿率いる英軍ジャワ占領, スタンフォード・ラッフルス副総督支配。
1815	ウィーン条約でジャワ(および属領)オランダに返還。蘭領東インド政府発足。
1825	ジャワ戦争(ディポネゴロ反乱→1830)。
1901	蘭領東インド政府, 女王の命により「倫理政策」施行(原住民の教育, 医療, 福祉を増進)。
1922	東インド, 蘭領ギアナ(スリナム)およびキュラソー島, 憲法上ネーデルラントと同格となる。
1942	2月, 東インド全域, 大東亜戦争で日本軍に占領される(1945年8月15日終戦まで)。
1945	8月17日, インドネシア独立宣言。
1949	12月27日ハーグ円卓会議でインドネシア独立承認。

タナー・スダでは, 伝説上, 西暦1世紀から王国が存続, 4世紀以降 王国繁栄。  
 タナー・ジャワでは, 伝説上の王国が西暦1世紀に存在, 5世紀以降 王国繁栄。

(文明の歴史は日本より寧ろ古い!)





- ① C. アルジマナ, C. スティヤキ.
- ② C. ホロボトクール, C. ハウオン, C. ムントウ.
- ③ C. セウ, C. 00・ジョングラン, C. ハロン, C. イスタナホコ.
- ④ C. クトウツリソコ\*
- ⑤ C. スカー, C. チェト.
- ⑥ ガネシャホコ
- ⑦ C. ハナタラン
- ⑧ C. スロウオノ, C. テイコウツキ
- ⑨ C. フラフ, C. ハンジャンラトウ, C. テイクス
- ⑩ C. キタル
- ⑪ C. シヤゴ
- ⑫ C. シンゴサリ
- ⑬ C. ハトウケ
- ⑭ C. シヤウイ\*
- ⑮ C. クマンガンシル\*
- ⑯ C. ハラハン\*
- ⑰ C. クタトン\*
- ⑱ C. シヤフン\*

C. = チャンディ (寺院), \* ) 本文に含まれず。

地形図は DIVA-GIS/Spacial Data により作成 2015.

王国/文化の中心は、大雑把に言えば、7—10世紀初頭まで中部ジャワ、東ジャワに遷った後、16世紀に中部ジャワに還り、現在に続く。

## 近代施設制度導入年次\*

ジャワ		日本		年差
1808	縦貫駅馬車道路(アニールーパナルカン)	—	(†)	—
1851	近代的医学校創立(バタヴィア医学校)	1861	(西洋医学所)	10
1858	電信開通(バタヴィアーホゴール)	1869	(東京-横浜)	11
1859	海底ケーブル敷設(ジャワ-外島)	1872	(関門海峡)	13
1864	郵便切手発行()	1871	(郵便切手発行)	7
1867	鉄道開通(スマラン-タンゲン)	1872	(新橋-品川)	5
1881	電話開通(バタヴィアーホゴール)	1890	(東京-横浜)	9
1886	近代的港建設(タンジュンプリオク)	1894	(横浜)	8
1925	ラジオ放送開始(バタヴィア, BRX)	1925	(東京, JOAK)	0
1928	定期航空確立(王立東インド航空會社)	1928	(東西航空社)	0

\*)データ出典: Torchiana, H. A. van Coenen, *Tropical Holland, An Essay on the Birth, Growth and Development of Popular Government in an Oriental Possession*, University of Chicago Press, Chicago 1921, ほか。

(†) 日本史には「駅馬車時代」が存在しなかった。

道路の舗装が整ったのは、東海道ですら戦後の1960年代！

## I. ジャワ史沿革

## II. 社寺の守護神

### 1. カーラ面とマカラ

2. 建物を支える人像またはアトラス

3. ドゥワラパーラまたは仁王像

4. 獅子像

5. 結言：日本の社寺守護神のルーツ

## カーラ面（怪物の面）：キルティムカー（Face of Glory）



(左)(右)とも  
カトマンズの  
寺院入口楣。

### ヒンズー神話

「ダイチャ(Daityas)のジャランダール(Jalandara)という名の頗る強力な王、ヒマラヤ王の娘として甦ったシヴァ神の妻パルワティに懸想、怪物ラーフを使者として遣わした。シヴァは激昂し、その眉間の第三の目から獅子の頭を持つ悪魔を発した。ラーフがシヴァ神に助けを乞うと、シヴァはラーフを喰わんとする悪魔を説伏せたが、悪魔はひどく空腹であるとシヴァに訴えた。シヴァが悪魔に自分の肉を喰うよう命ずると、ラーフは腕も脚も、更には腹部も胸部も首も食い尽くした。

シヴァは悪魔の服従を喜び、残ったその顔に、『今後キルティムカー(栄光の顔)として知らせるであろう』、『キルティムカーはシヴァ寺院の戸口にあって、彼を敬わない者は何人たりともシヴァの恵みを受けないであろう』と定めた。斯くして、シヴァ寺院の戸口がキルティムカーの永久の居場所となった。」

キルティムカーはナガ(Naga, 大蛇または龍)を掴んでいる、縁がある(理由、井口に不明)。

外 外部資料からの画像。無印は井口撮影または作成。各出典はウェブサイト参照。

## 参考：ヨーロッパの ゴルゴネイオン (Gorgoneion)



軒先瓦。シシリア出土，ca. 490 BC。

外



アテネの黒絵陶器カイリクス(酒杯)。  
紀元前6-5世紀。

外

ギリシャ神話の女の怪物ゴルゴン (Gorgon) に因む。

魔除けとしての機能は同じだが、キルティムカーとはオリジンが異なる。

# マカラ (Makara)



外



外

左:ベンガル (18世紀)。

右:ホイスラ (12世紀)。



外



外

左:カンポン・トム (7世紀)  
カンボジア。

右:ワット・スタット (19世紀)  
タイ。

水の女神ガンガ・マ (Ganga Ma) あるいは海神ヴァルナ (Varuna) の乗物,  
また希望と愛の神カマデワ (Kamadeva) の象徴。

架空の水棲動物であって、イメージは様々。象の鼻, 鰐の身体, 孔雀の尾, . . . .

# ジャワの“カーラマカラ・モチーフ”



典型例:ボロブドゥール寺院のアーチ

外



外

マカラ部分(拡大)

ジャワでは初期(7世紀)の頃から、頻りにカーラとマカラが組合されて飾られた。両者を繋ぐ柱の部分はナガを象るとの説あり(井口同意)。

カーラ面は、9世紀後半建立のプランバナン寺院群以降、獅子面に変化。

# ジャワの カーラ／マカラ 通観（抄）

チャンディ・アルジュナ（ディエン高原），ヒンズー，西暦650-730



ディエン高原の寺院群はケリン王国が建立（井口説）。

チャンディ = 原義は王侯貴族の廟，後にイスラム化以前の宗教的建造物一般を含む。

チャンディ・カラサン (カラサン), 仏教, 西暦<778



チャンディ・カラサン。

サイレンドラ王国第2代ヴィシュヌ王の頃, 同王家の要請によってサンジャヤ王国のパナンカランが寄進。嘗ては僧院(現チャンディ・サリ)などを包含する大寺院。

ジャワに現存する最古の仏教寺院(井口の識る限り)。



カーラ。



マカラ。

チャンディ・セウ(プランバナナ平野), 仏教, 西暦780年頃



チャンディ・セウ全景。



階段側桁下部のマカラ。



側堂の一つのカーラ面。



本堂入口門柱下のマカラ。

本寺院はサイレンドラ第3代インドラの命によって文殊を祀る寺院として建立。

チャンディ・ムンドウ(クドウ盆地), 仏教, 西暦782年頃



チャンディ・ムンドウ。

サインドラ第3代インドラ王の時代に建立。



基壇壁のマカラ, 兼排水口用。



階段側桁下部のマカラ。

チャンディ・ボロブドゥール(クドゥ盆地), 仏教, 西暦824



ボロブドゥール全景。



階段アーチ  
のカーラ面



基壇上, 兼排水口。



階段側桁下部。



マカラ

基壇コーナー。

ジャワ最大の仏教寺院。サマラトゥンガ王が完成。立体曼荼羅(および三界)を具現。

チャンディ・ロロ・ジョングラン寺院群(プランバナン平野), ヒンズー, 西暦856



寺院群全貌。

ボロブドゥールと双璧をなす豪華遺跡。  
サイレンドラのプラモダワルダーニと結婚  
したサンジャヤのラカイ・ピカタンが建立。  
サイレンドラの富に与る(井口説)。



階段側桁下部のマカラ。  
マカラは上屋にも排水口を兼ねて  
多数設置。



チャンディ・シヴァ入口獅子面。



チャンディ・ナンディ入口。



アプサラ・トリオの龕。

カーラ面から獅子面に変化していることに注目！

チャンディ・バドゥー(東ジャワ, マラン), ヒンヅー, 西暦760



本堂全景。



正面カーラマカラ。



側面龕。

ケリン王国から分家して東ジャワにカンジュルハン王国を建国したガジャヤナ(別名 リムワ)が建設。

建物の構造, カーラマカラともディエン高原のものに酷似。

カンジュルハン王国の建国は, サンジャヤ朝のムプ・シンドクが, 東ジャワ中部メダンに遷都, イシャナ朝を開朝する(929 AD)を1世紀半遡るイベントであったことに注意。

チャンディ・キダル(東ジャワ, マラン東郊), ヒンヅー, 西暦1248



シンガサーリ王国第2代アヌサパティ王の廟。楣(まぐさ)上の面はプランバナンで変化した獅子面。

マカラの口に動物がない。以降の東ジャワの寺院にはマカラが見られない。



正面楣の獅子面

シンガサーリ王国はジャワ史上稀代の英雄, ケン・アロックが1222年に建国。



階段側桁下部のマカラ。

チャンディ・シンゴサーリ(東ジャワ, マラン北郊), ヒンズー・仏教・密教混淆, 西暦1280



シンガサーリ王国第5代クルタネガラ王の時代に建てられたが、ジャヤ・カトウワンの謀反による王の崩御(1292 AD)のため未完成。



2階の獅子面（未完成）。



1階の獅子面。

チャンディ・バジャン・ラトゥ (東ジャワ, マジャパヒト), 14世紀



左: 全貌。  
右: 門の入口楣獅子面。

チャンディの名を冠するが、寺院でなくカプラ(門)。

パナタラン寺院群(ブリタール北, パナタラン), ヒンズー・仏教・タントラ混淆, 14世紀



マジャパヒト王国の国家寺院。  
謂わば日本の総国分寺に相当し規模大。

チャンディ・アンカ・タフン [Candi Angka Tahun, 年号寺院] の獅子面。

パナタランで獅子面の見られたのは此処のみ。

サカ歴1291年(1369 AD)示すジャワ文字

## 近現代宮殿などのカーラ面



ジョクジャカルタ,  
タマン・サリ離宮(廃墟)。



ジョクジャカルタ王宮, 大ホールフェンス。



ジョクジャカルタ,  
王宮外面破風。



ソロ市内, スリウェダリ  
恩賜公園ゲート。



スリウェダリ恩賜公園内,  
ワヤン劇場垂幕。

デザインは様々。

# 日本の鬼瓦

東大寺(743年建立)大仏殿東北隅多聞天后側でオリジナルの棟端瓦(模造品)を初見。インドネシアで親しんだカーラ面を連想する。



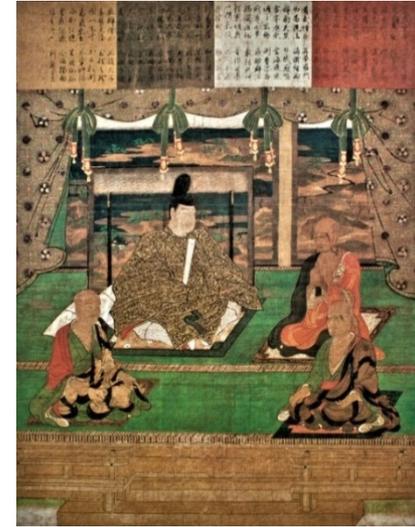
模造品。



講堂跡で出土。

四聖(聖武天皇, 良辨, 行基, 菩提遷那)の一人, 菩提遷那はインドからの渡来人。鬼面は彼が教示したと想像。

菩提僊那像,  
三輪途道女史  
製作2002。



四聖圖。



度重なる大火を免れ，東大寺に遺る鬼瓦



轉害門。



三月堂(法華堂)(752)。

他所で見た類似の鬼瓦



唐招提寺(759)金堂降棟。



二月堂前の小屋。



参考：大仏殿  
(江戸時代，角鬼)。



木津，岩船寺(729)鐘楼。

## 各地出土奈良時代の鬼面瓦(例)



外

大安寺,  
8世紀中。



外

法隆寺(607)西院,  
8世紀中。



外

平安宮大極殿,  
9世紀中。



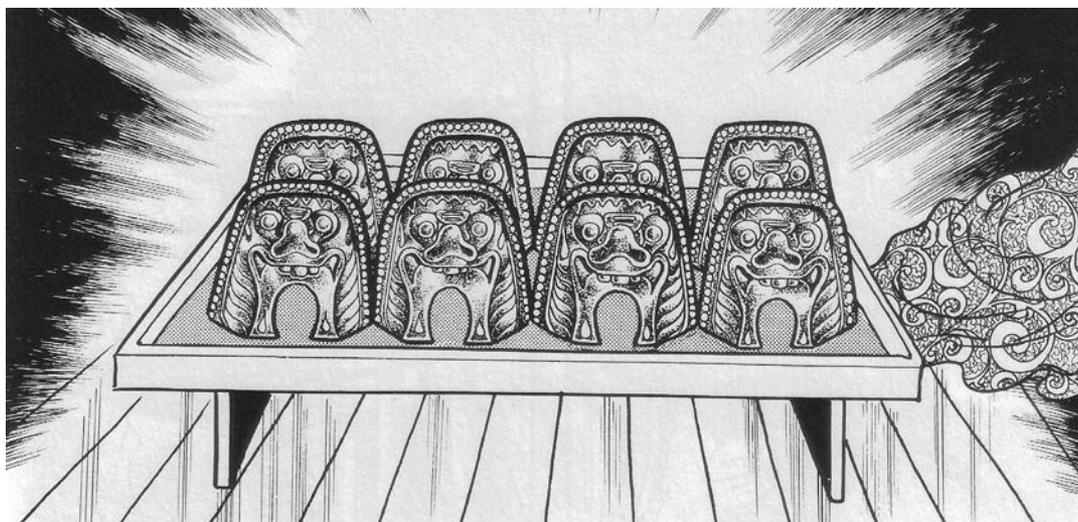
外

甲斐国分寺,  
8世紀。



外

下野国分寺,  
8世紀。

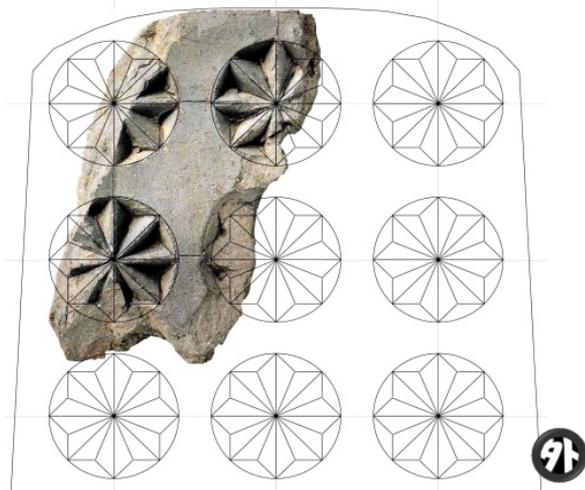


外

手塚治虫『火の鳥・鳳凰篇』  
(1969-70)の中で、茜丸が  
制作し、コンペに勝利して採  
用された鬼瓦(部分)。

オリジナル棟端瓦に類似、  
学者である手塚なればこそ  
調査に基づいて描かれたと  
思われる。

# 東大寺より古い寺院の棟端瓦



法隆寺(607)若草伽藍出土  
棟端瓦断片と輪郭(再製図)。



法隆寺大藏寶院に再現。



参考：法隆寺南大門  
(江戸時代, 角鬼)。



奈良市山町山村廃寺  
出土。



明日香村奥山久米  
寺跡。

飛鳥時代の棟端瓦は殆どが蓮華紋。  
デザインは様々。

現代に続く二本角の鬼を象った  
鬼瓦が現れたのは室町時代中期  
(15世紀)とされている。

# 日本の鴟尾(鴟尾), 鯨, 摩伽羅

## 寺院棟端の鴟尾(しび)



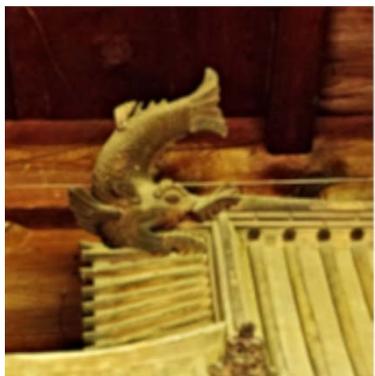
飛鳥時代に始る棟端瓦。  
鴟尾または鴟尾の語意は、  
「鳶の尾」。  
但し辟邪・火伏せの意味が  
あって、マカラに由来すると  
考えられる。

唐招提寺(759)金堂の鴟尾のレプリカ (真品は寶物館に収蔵)。



東大寺大仏殿の鴟尾(模造)。

## 厨子または須弥壇の鯨



信州，一乗山大法寺観音堂の厨子。  
大宝年間(701-704年)創建，  
厨子は南北朝時代(1336-1392年)  
北条氏が寄進。

左：雌(牙なし)，右：雄(牙あり)。



甲州，柏尾山大善寺薬師堂の厨子。  
養老2年(AD718)行基が創建。  
薬師堂(本堂)と厨子は建武元年(1355年)  
武田氏が寄進。

異名：葡萄寺。甲州葡萄発祥の地。



獅子門。



龍の門。



祭文殿(焼香殿)と  
祭器庫。



唐門(源敬公墳基前)。



尾州(瀬戸), 應夢山定光寺本堂内の鯪。  
1336年(建武3年)禅僧覺源が開山,  
1534年に修理改修。

鯪が高欄の架木(ほこぎ)の端を喰え,  
平桁(中部水平部材)に載るかたちで  
存在する珍しい(唯一?)の例。



祭文殿, 日本最古の床タイル。

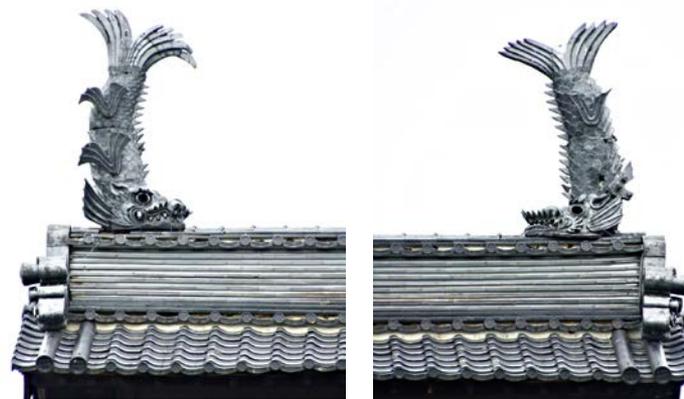
定光寺は  
尾張家墓所,  
尾州名勝。

## 寺院屋外建造物の鯨



尾州(瀬戸), 應夢山定光寺,  
上: 竜の門, 10尾の内。  
下: 祭文殿(焼香殿), 6尾の内。

寺院屋外建造物の棟上に鯨が存在,  
或いは現存するのは本例のみ(井口  
の識る限り)。



信州(松代), 眞田山長國寺本堂。

鯨は海津城(松代城)にあったものを  
明治19年本堂再建の際に移設。

## 摩伽羅



『摩伽羅』は禅とともに南インド・パラワの僧、菩提達磨によって5世紀後半の宋へ齎された。  
日本へは鎌倉時代に伝来したとされる。

黄檗山萬福寺は1661年にシナからの渡来僧、隠元が母国福建省の同名の寺に模して開創。



宇治，黄檗山萬福寺(1661)総門。

摩伽羅には脚があることに注意  
(鯨との違い)。



上州(高崎), 少林山達磨寺,  
1673-1681年創建(?)。

縁起達磨発祥の地。

武州(三鷹), 靈泉山禪林寺,  
明暦大火の後, 1700年当地に移転。

漆喰壁は防火のため?

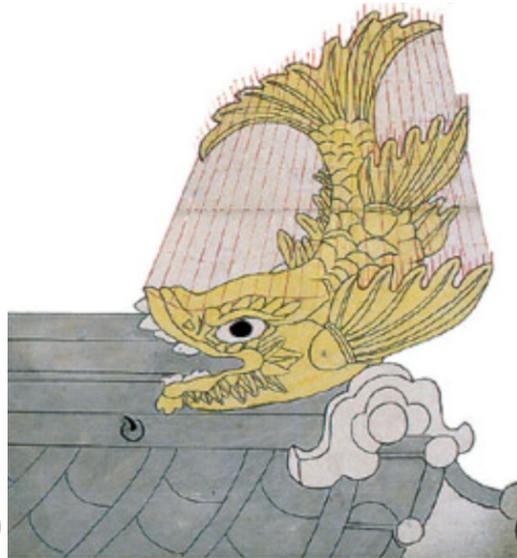
森林太郎(歐外), 太宰治の墓所。

## 城の鯨



外

安土城の鯨瓦  
(復元品)。



外

名古屋城御天守生地口  
寸尺圖面。

織田信長が1579年建築の安土城棟上に載せたのが嚙矢。

寺の鯨に倣ったとされるが、信長であればイエズス会伴天連から習ったか(井口憶測)。

総金張りを始めたのは黄金趣味の秀吉。信長のデザインの方がエレガント(私見)。

## I. ジャワ史沿革

## II. 社寺の守護神

1. カーラ面とマカラ

2. 建物を支える人像またはアトラス

3. ドゥワラパーラまたは仁王像

4. 獅子像

5. 結言:日本の社寺守護神のルーツ

# 初見



チャンディ・スロウォノ, クディリ郊外。



訪ねた当初の目的は  
“説話レリーフ”の鑑賞  
であったが、上部を支え  
る人像を初見。

両チャンディとも、  
マジャパヒト期の廟、  
基壇を遺すのみであっ  
たればこそ気付く。



チャンディ・ティゴワンギ, クディリ郊外(有翼人像)。

以後, ジャワ中の数多  
のチャンディを観察。

# 由緒



メルカートルの地図帳。

オリンポスに戦を挑んだタイタンのひとり、アトラスはゼウスの怒りに触れ、地球を肩に担いでいるよう、あるいはホメロスによれば天と地を隔てる柱を荷うよう処罰された。

(メルカートルの地図帳→普通名詞 atlas を派生。)

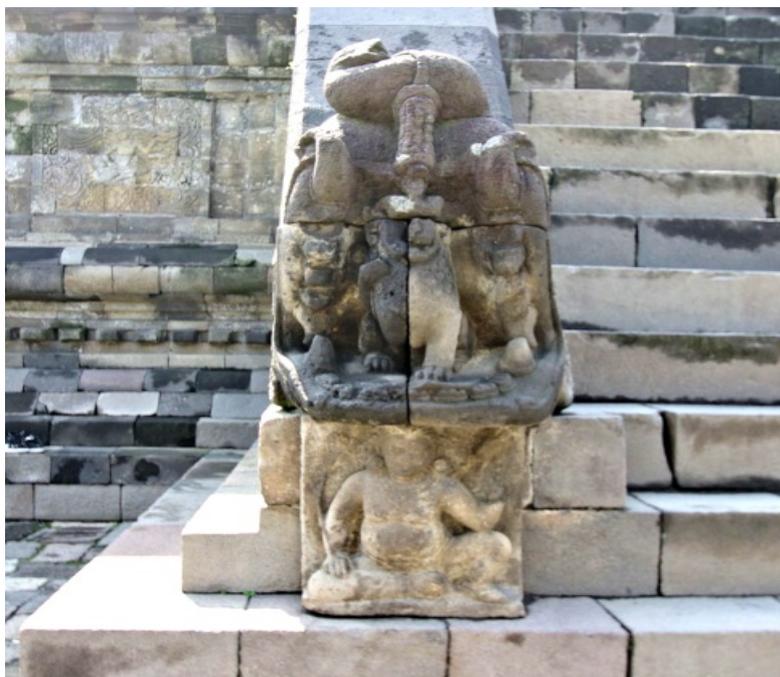


ガンダーラの寺院跡からの出土品。

下の例は、有翼神エロース？  
(エーロスはキューピッドを派生。)

## ジャワのチャンディの人像探索(抄)

チャンディ・ムンドゥ(クドゥ盆地), 仏教, 西暦782頃



チャンディ・ムンドゥ階段裾の人像(ひとがた)。

胡座し、頭で以って摩伽羅を担っている。

チャンディ・セウ(プランバナン平野), 仏教, 西暦780年頃



チャンディ・セウ本堂の人像(ひとがた)。

左右通し柱(カーラマカラ)の下に各3体, 楣を支える形で各1体, 計8体が見える。

ロロ・ジョングラン寺院群チャンディ・シヴァ(プランバナソ平野), ヒンヅー, 西曆856



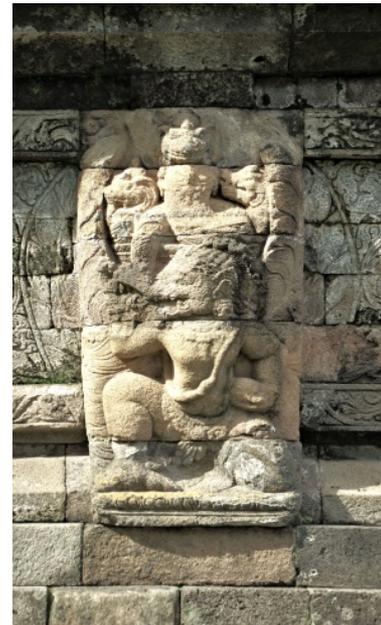
チャンディ・シヴァ本堂入口柱下部の人像(ひとがた)。

保存状態良く, 美しい。

## チャンディ・キダル(マラン東郊), ヒンズー, 西暦1248



基壇コーナー,  
獅子像。



ガルーダ神話の3シーン (基壇左右および後側)。

左:(奴隷にされた母ウイナタとともに)蛇どもに仕えるガルーダ,  
中:難儀の末, 蛇どもの根城からアマリタを手に入れたガルーダ,  
右; アマリタを持帰り, 母を救済したガルーダ。

ガルーダはインドネシアの国章, ガルーダ航空のロゴに採用。  
但し国鳥はジャワクマタカ (Elang Jawa, Javan Eagle)。



## ガルーダ神話



アマリタの壺を獲得し、勝利の叫びを上げて帰途に着くガルーダ。

外

聖者カスヤパ(Kasyapa)の8人の妻の中にカドウル(Kadru)とウィナタ(Winata)の2人があった。カスヤパが所望する賜物を問うと、カドウルは千匹のナガ(蛇)、ウィナタは2人の男児を希望した。カドウルの産んだ1000個の卵は500年後に孵化して千匹のナガが現れた。ウィナタの産んだ2個の卵は孵化せず、痺れを切らしたウィナタが1個を割ると未熟のアルナ(後に太陽の馭者)が出でて、母が卵を人為的に割った事実になり、怒り、「母はカドウルの奴隷になるであろう。然し500年後にもう1個の卵から誕生する屈強な息子によって解放されるであろう。」と告げた。或る日、カドウルはウィナタを賭けに誘い、奸計によって勝利してウィナタを奴隷とした。この時期に誕生した翼を持つガルーダは、母をナガの束縛から解放するには神界にあるアマリタ(amrita, 生命の水)が代償として必要と知った。ガルーダは困難の末にアマリタを入手し、ナガのもとに届けて母を解放、ナガをも退治した。(この話の中で、ガルーダはヴィシュヌの乗物となる。)

パナタラン寺院群(ブリタール北, パナタラン), ヒンズー・仏教・密教混淆, 14世紀



本堂基壇3階壁面の有翼獅子像。



チャンディ・ナガ壁面の人像。



ペンドポ・テラス壁面脇の人像。



これらは守護神というよりデコレーションに映る。

## ディエン高原の寺院のアトラス



チャンディ・スティアキのアトラス。



アトラスは本来的に仏教を奉るガンダーラで採用された。  
ジャワへの仏教伝来を200年遡るディエンの、然もヒンヅー教の寺院に  
誰が持込んだのか(未解決の疑問)。

# 日本の寺院のアトラス

法隆寺(607) 法隆寺を幾度目かに訪れたとき、小屋束に存在するのに初めて気付く。



金堂1階東南角。



金堂2階東南角。



五重塔第1層東南角。



五重塔第1層東北角。

金堂1, 2階, 五重塔第1層とも, 類似の像は4隅にあり。

## 木津, 岩船寺三重塔 (729)



南東。

北東。

北西, 南西にも同様に配置。



オリジナルの隅鬼。

『隅鬼』と呼称されると学ぶ。

唐招提寺(759)金堂



北西。



北東。



南西。



南東。

東寺五重塔(1644 再建, 第1層)



北西。



北東。



南西。



南東。

## 香爐の邪鬼



東大寺大佛殿中門 1746。東大寺二月堂 1795。

## 燈籠の邪鬼



日光山中禪寺 1913。



日光山輪王寺三佛堂前 1961。

何れも近世以降に奉納。江戸時代に流行った七福神信仰の毘沙門天に纏わるという説がある。手水を支える脚に使われた例も其処此処にある。

## I. ジャワ史沿革

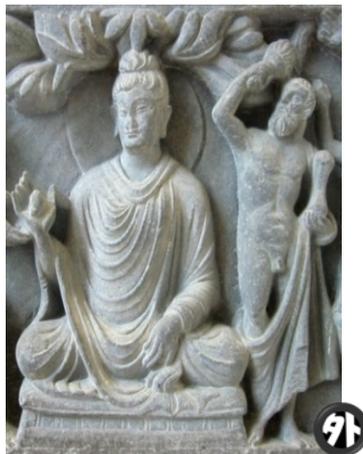
## II. 社寺の守護神

1. カーラ面とマカラ
2. 建物を支える人像またはアトラス
3. **ドウワラパーラまたは仁王像**
4. 獅子像
5. 結言:日本の社寺守護神のルーツ

## ヘラクレス, アレクサンダー大王の東征でガンダーラに伝来



ガンダーラ出土レリーフ。



ギリシャ神話のヘラクレスがガンダーラに齎され、仏の守護、執金剛神となる。

ガンダーラに門衛(ドウワラパーラ)としてのヘラクレスは遺っていない(井口の調べた限り)。

後の執金剛神像は、棍棒のほか蛇(捕縄)を武器に持つ。



蛇を握るヘーラクレース。

### ギリシャ神話のヘーラクレース

ゼウスがアルクメーネに懸想, 彼女の許婚アムピトリュオンに変装して一夜を過ごして産ませる(アムピトリュオンの子イーピクレーースと双子)。

ゼウスが睡眠中の妻ヘーラーの乳首をヘーラクレースに吸わせると, 痛みに目覚めたヘーラーが突き飛ばす(飛散した乳が Milky way)。ヘーラーが蛇を放つと, 赤子のヘーラクレースは素手で蛇を締殺す。

長じて8回の冒険, ライオンを倒して手懐ける話を含む。

## ジャワのドゥワラパーラ(門番)



サイレンドラ, チャンディ・セウ正門 782。



サイレンドラ, チャンディ・プラオサン ca.820。



チャンディ・シンゴサーリ 1269。

チャンディ・セウが最古(井口の識る限り)。  
例えばボロブドゥール落成の折に, ジャワを  
訪れた印度の僧が齎した(推測)。

筋骨隆々のヘラクレスではなく, ヒンズーで  
馴染みのラクササ(Raksasa, 羅刹天)が  
モチーフ。棍棒とナガ(大蛇)を持つ。

仏教由来の執金剛神は, 純ヒンズー寺院には  
見られない(井口の識る限り)。

# チャンディ・パナタラン(ヒンズー/仏教(密教)混淆, マジャパヒトの国家寺院)



本堂基壇最上階からの西方の眺望。

中央に見える塔屋がチャンディ・アンカ・タフン、その先に正門がある。手前右側の四角な建物はナガ・テンプル。正門からの参道脇に数対のドウワラパーラが見える。

本院上屋は消失し、基壇を遺すのみ。



パナタラン正門のドウワラパーラ。



本院前のドウワラパーラ像(不詳)。

## マジャパヒト期，地方寺院の守護像



ブリタール市パナタラン博物館前庭  
(出所不詳)。

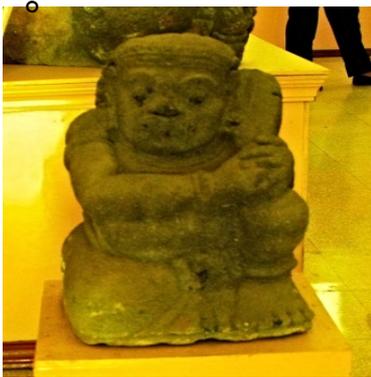
## バリのドゥワラパーラ像



バリ，バトゥアン村，プーラ・プセー寺院。11世紀。

純ヒンズー寺院ではあるが，恐らくジャワ  
の仏教寺院のものを模倣。

モデルはジャワで採用されたラクササで  
はなく，バリ神話で聖獣バロン (Barong) の  
永劫の敵とされる魔女ランダ (Rangda)。  
これも棍棒を所持しているのが執金剛神  
たる証左。



パナタラン博物館収蔵品の例(出所不詳)。

## 現代風ドゥワラパーラ像



ジョクジャカルタ王宮内，  
ドノプラト門前のドゥワラパーラ像。

16世紀に中部ジャワに復活し、現在に  
続く新マタラム王宮では、イスラム化以  
前のヒンズー/仏教文化も貴ばれるよう  
になった。



ジョクジャカルタ，ホテル・ガルーダ玄関。



ブリタル市，ホテル・トゥグウ玄関。

## 日本の寺院の守護像

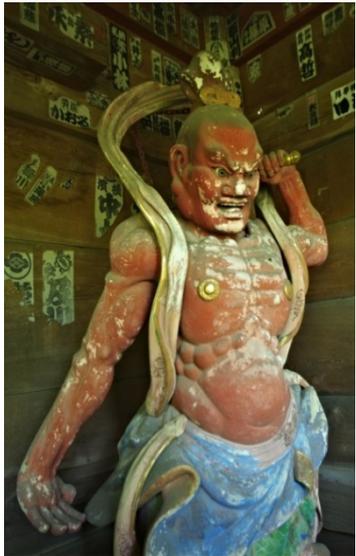


奈良時代，法隆寺中門の金剛力士像  
(西暦711年製作，塑像)。

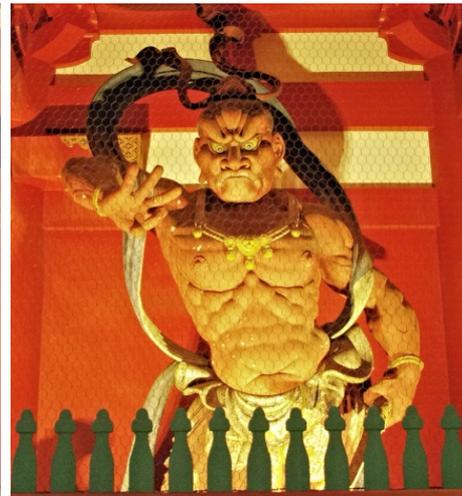
日本最古の仁王像。力士をモチーフ。  
ジャワの肥満体のラクササより、  
ヘラクレスのイメージに近い！  
力士像は以降の時代に踏襲された。



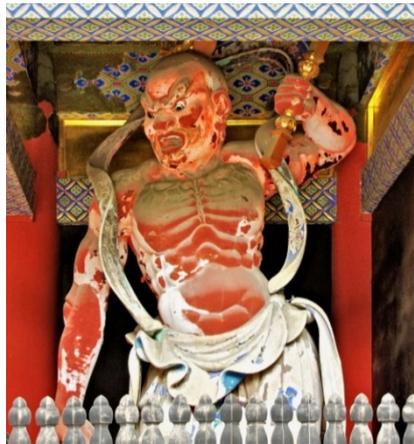
鎌倉時代，東大寺南大門の金剛力士像，木彫，西暦1203年，運慶率いる慶派作  
(阿像：運慶，快慶ら；吽像：定覺，湛慶ら)。



鎌倉大蔵山杉本寺の仁王像(木彫)。  
鎌倉時代運慶作と伝わるが、真偽不明。



浅草寺宝蔵門の仁王像。  
1964年、佛師村岡久作製作。

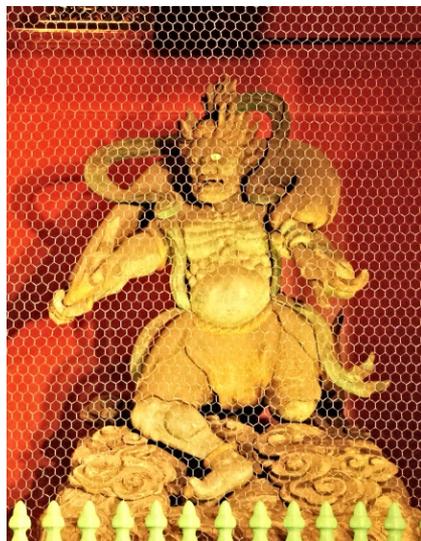


日光山東照宮の金剛力士像(陽明門)。  
寛永15年(西暦1638年), 佛師法眼康音作。

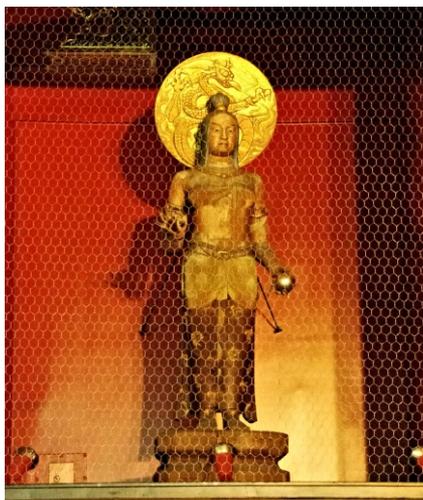
日光山は本来的に神仏混淆,  
明治期に社寺分離を被る。



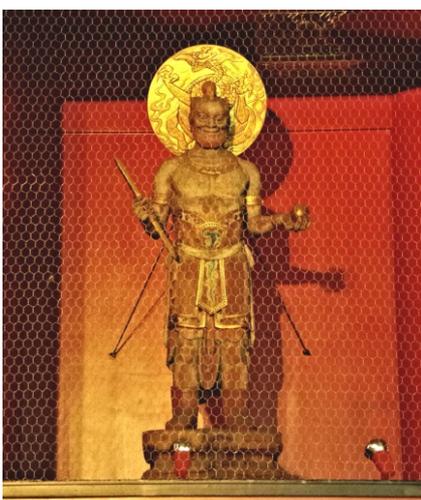
正面左(南西) 雷神像。



正面右(南東) 風神像。



背面左(北東)  
金龍像(女神)。



背面右(北西)  
天龍像(男神)。

浅草寺 風雷神門(雷門)の守護神像  
1600年代後半作, 後に修復彩色。

近世以降の日本では, 執金剛神の  
ほか, 様々の神が社寺の守護神に  
採用された。

風雷神。



外

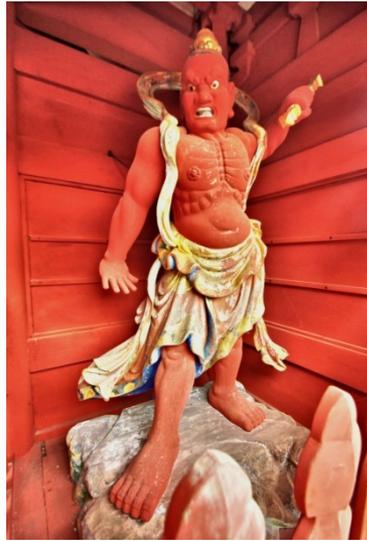
俵屋宗達『風神雷神図』1624?



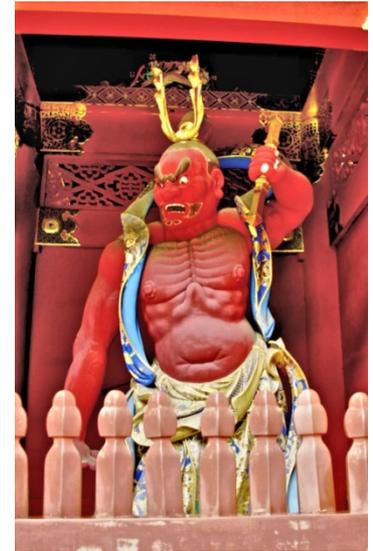
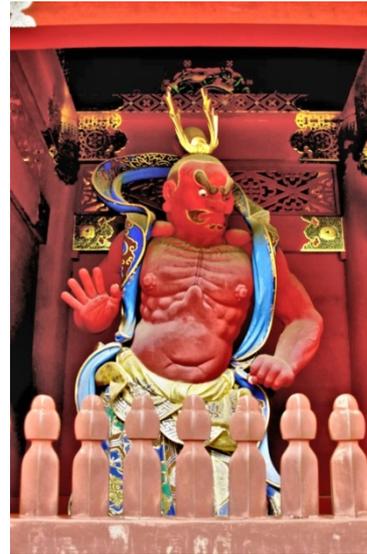
外

尾形光琳模写『風神雷神図』1711

龍神 (水を司る→火消し)。



日光山中禅寺山門正面の仁王像。



日光山輪王寺大猷院(1653)仁王門の仁王像。

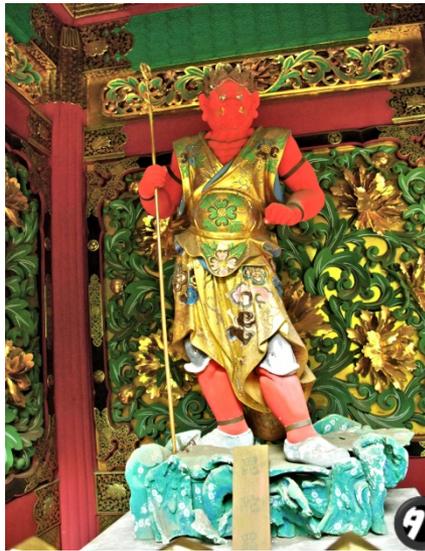


同山同門背面の風神雷神像。



同山同院二天門, (左)持国天像, (右)広目天像。

『四天王』の二神 (他は増長天と多聞天)。



外



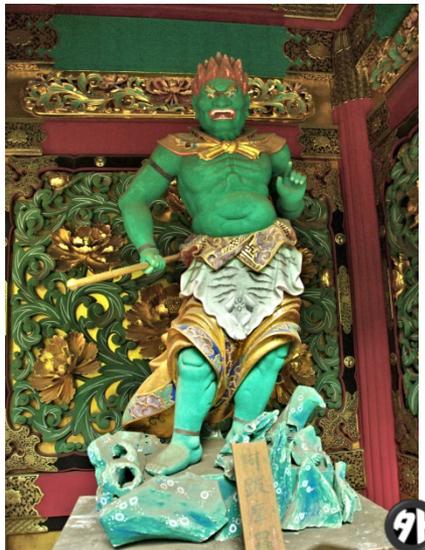
外

日光山輪王寺大猷院夜叉門。

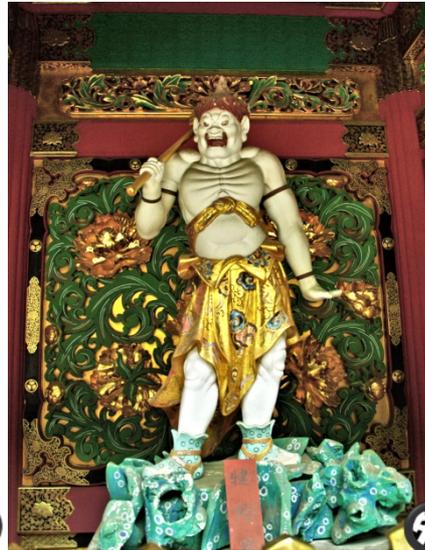
門の名称通り『四夜叉』を据える。  
(2015年9月から約半年間修理。)

正面左:毘陀羅(びだら)。

正面右:烏摩勒伽(うまろきゃ)。



外



外

背面左:阿跋摩羅(あばつまら)。背面右:犍陀羅(けんだら)。

## I. ジャワ史沿革

## II. 社寺の守護神

1. カーラ面とマカラ
2. 建物を支える人像またはアトラス
3. ドゥワラパーラまたは仁王像
4. 獅子像
5. 結言:日本の社寺守護神のルーツ

## ガンダーラの獅子像



外

ガンダーラ・スワット, ブトゥカラ仏塔前。



外

クシャナ朝マトゥーラ遺跡出土。

ライオンに社寺の守護を託すは  
アッシリア, ギリシャ時代からの伝統,  
ガンダーラに伝来。

## スリランカの獅子像



外

古都アヌラダープラ。



外

ポロンナルワ公会堂入口。



外

ヤパフワ (Yapahuwa) 王城の門。

獅子像は取分けスリランカで好まれた。  
(シンハラ人 = ライオン・ピープル。)

# ジャワのライオン像



ボロブドゥール東側階段前地面。



南側階段前地面。



西側階段前地面。

デザインはスリランカのものに酷似。  
スリランカ出身でボロブドゥールの伝説上の設計者グナダルマが教えたか？  
(井口の想像)。

ジャワの寺院での獅子像の存在は  
ボロブドゥール以外では、プランバナンの所謂『プランバナンモチーフ』  
に見るのみ。

ジャワの自然界の頂点はジャワ虎、  
獅子には馴染みがなかったのが理由？



第一回廊階段脇。



上部第1円壇。

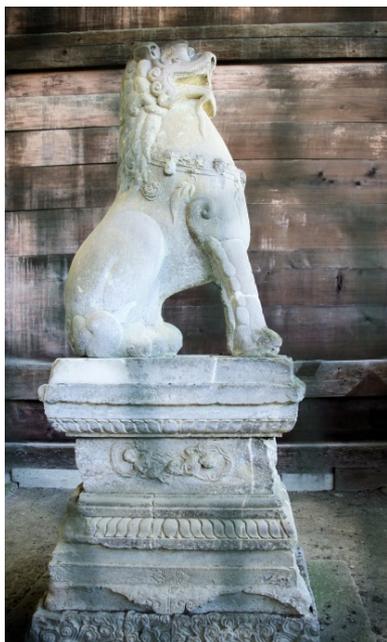


プランバナンのモチーフ  
プランバナンの寺院群の  
チャンディ・シヴァおよび  
チャンディ・ナンディの  
基壇外壁を装飾。  
中央に獅子像。  
誰の考案か不明。



- ・上例レリーフの左右の樹の下の動物は、人面鳥  
キナラ・キナリ。
- ・他に、小鹿、野兎、緬羊、鶯など様々の動物を  
配したものがある。左例は野兎（井口年賀状、平成  
13年辛卯(かのと・う)に採用。

# 日本の獅子像



東大寺唐獅子像，左：西側，右：東側。

デザインは所謂『唐獅子』。  
座高は東のもの1.8m，西のもの1.6m。  
南宋から訪れた4人の石匠によって  
南宋産の石材を用いて1196年に制作  
されたとされる。



外

東寺，獅子狛犬。

日本独特の獅子狛犬(略して狛犬，口を開いた阿形の獅子と口を閉じた吽形の狛犬の対)が現れたのは平安時代。



大宝神社の木造獅子像(滋賀県栗東市)。  
神社創建は大宝元年(710),  
獅子像は12世紀後半の作。

獅子像は神社にも用いられるように  
なった。

外



日光山東照宮獅子狛犬(陽明門裏側)。  
寛永年間(1624-25 AD), 恐らく法眼康音作。  
狩野養川下絵。

(日光山は元は神仏混淆。)



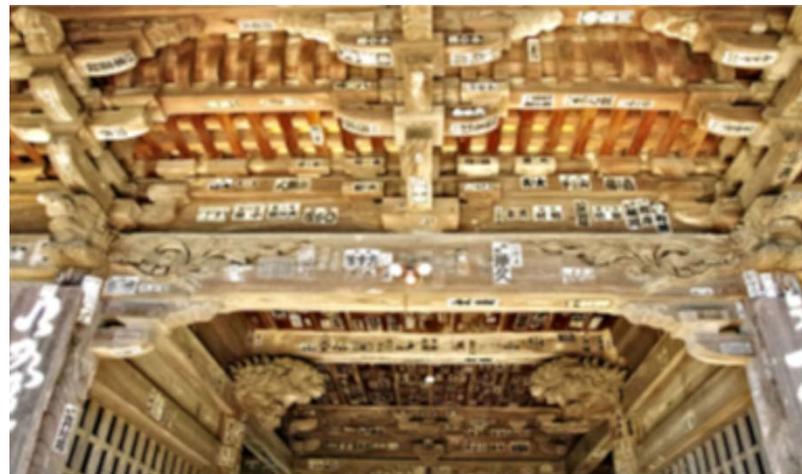
日光山大猷院二天門の唐獅子(獅子鼻)。



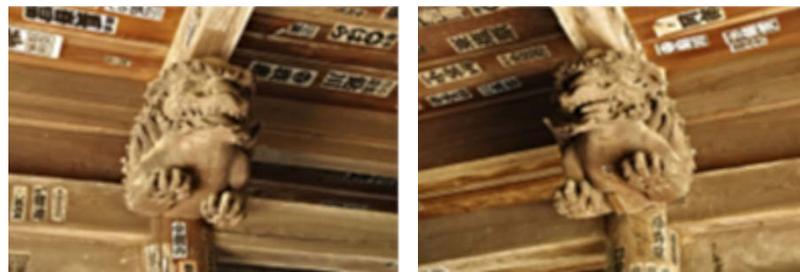
同山同院夜叉門の唐獅子(猓鼻)。

木鼻に装飾が付けられた『獅子鼻』  
の出現は並べて鎌倉時代以降。  
長い鼻を持つ獅子を模ったものは  
『猓鼻』と呼ばれる由。

大善寺は養老2年(718)行基が創建、  
仁王門は元禄17年(1704)再建。旧  
武田家家臣、土浦城主土屋氏寄進。



甲州柏尾山大善寺仁王門中央上部。



仁王門内部天井下の獅子(獅子鼻)。



仁王門入口梁左端の獅子(猓鼻)。

## 5. 結言：日本の社寺守護神のルーツ

講演者の解釈／推定。

- (1) 鬼面瓦（東大寺の棟端瓦に最初に採用）← キルティムカー。
- (2) 鷄尾, 鯨, 摩伽羅（唐招提寺の鷄尾が現存する最古のもの）← マカラ。
- (3) 邪鬼, 隅鬼（法隆寺などの屋根の小屋束, 香炉や燈籠）← アトラス。
- (4) 仁王像（法隆寺に据えられたものが最古）← ヘラクレス。

識者から賜ったコメント。

- (1) 日本には、古来、何時の時代においても外国の文化を好んで取入れる気風があった（唐招提寺高僧）。
- (2) 日本は閉ざされた神の国ではあったが、文物の多くは移入された海外からものに由来する（信州大法寺住職）。

## (附言) 講演者の積年の疑問

日本の諺に云ふ『三人寄れば文殊の智慧』は間違ひではないか。

ジャワの古い碑文に「インドラ王が佛(Buddha), 法(dharma), 僧(sangha)の智慧を併せ持つ文殊の像を祀る寺院群の建設を命じた。」とあった。

正しくは、文殊菩薩に適心智慧を得んと欲すれば、三寶(佛法僧)の知識を結集せねばならぬ、『三寶(佛法僧)併せて文殊の知恵』ではないのか？

禅学者であり物理学者でもある定光寺の學僧から授かった答：

「佛法僧は本來的にトゥリニティ(三位一体)である。物理學で譬へれば、原子は然るべき数の陽子、中性子、電子があつてこそ完全な存在たり得る。」